

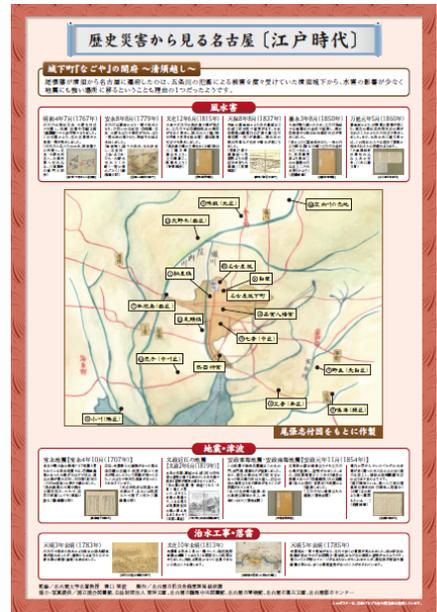
# 歴史災害から見る名古屋 A-1

名古屋市HPよりpdfダウンロード可能

<http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000076734.html>



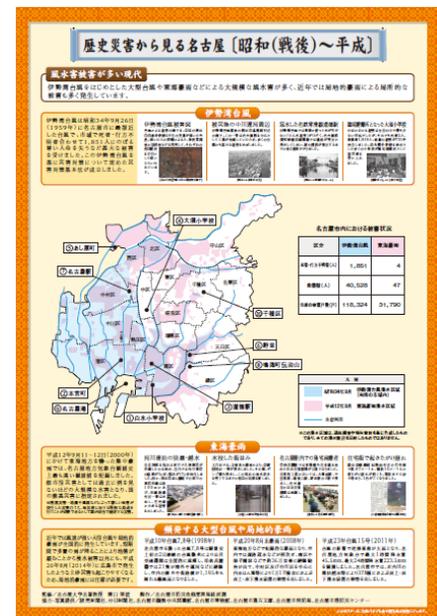
44000108 名古屋市域の成り立ち



44000109 江戸時代



44000110 明治～昭和(戦前)

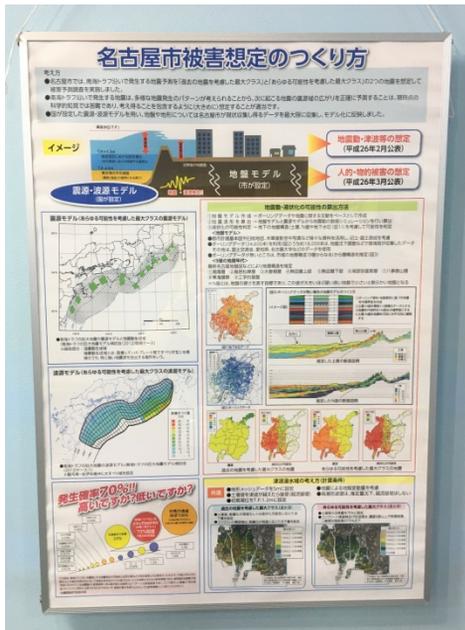


44000111 昭和(戦後)～平成

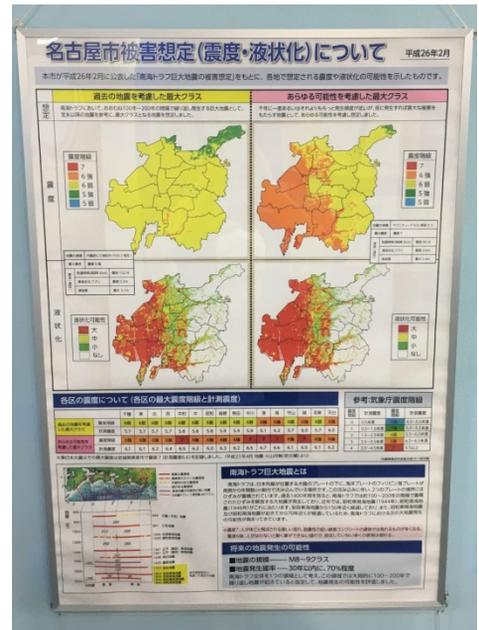


# 名古屋市被害想定 南海トラフ地震

## (H26年) A-1



41000873  
名古屋市被害想定  
の  
つくり方



41000875  
名古屋市被害想定(震  
度・液状化)について



41000877  
名古屋市被害想定  
(津波)について

# (2016年) 平成28年伊勢湾台風展

## 伊勢湾台風の被害

### 伊勢湾内の主な都市の被害状況

被害項目	津市	桑名市	四日市市	亀山市	志摩市	尾鷲市	美浜町	熊鷹町	名古屋町	伊勢市	伊勢湾内全域
死者	1,815	205	205	125	35	35	31	25	345	3,145	3,145
負傷者	40,532	1,849	684	419	1,417	116	176	303	13,844	59,636	59,636
全壊	7,732	771	1,445	432	312	81	85	65	12,811	28,250	28,250
半壊	43,849	771	3,962	291	400	334	238	1,462	52,149	63,266	63,266

### 貯水による被害

貯水のうち最大大きな被害を与えたものは桑田・白水地区地区にある 8 号貯水場で貯水されていた 30 万石の貯水の内 28 万石が放出したものでした。また名港木材貯水場 7 万石の内 4 万石、加藤貯水場の 22.5 万石の内 5 万石、水堀貯水場では 21.5 万石の内 2 万石が放出して被害をあたえました。

※本林の貯水場の総量 - 1日11.0万石で約0.278立方メートル



中部電力清浄社宅に流れ込んだ洪水  
津区六浜町 住宅の軒先まで濁流とともに押し寄せた洪水

### 貯水の流出状況



伊勢湾台風 桑田西2区に溢れられた貯水場

① 42000464 (A-0)  
42000477(A-1)

## 市内の浸水状況①

「伊勢湾台風による水害は、河川出水によるものでなく、高潮によるものである点に特徴性が認められる。南区の白水・桑田地区方面への浸水は午後7時前後から始まり、この地区へは8号貯水場から貯水を流しながら入ったものと、天白川をさかのぼった高潮が千鳥橋付近の堤防を破れて入ってきた出水が主であって、これらは水勢が極めて速く、また水位の上昇も急激であった」



水に浸かった稲浦稲荷大明出場所 (南区)  
名古屋東陽町付近の状況 (南区)



最高水位表示 (現在の稲浦稲荷大明出場所)  
津区多賀町良通町 庄内川堤防

② 42000465 (A-0)  
42000478(A-1)

## 市内の浸水状況②

「中川瀬川の西、荒子川河口付近の大手町・寛政町・稲永町付近では、荒子川堤防が低くかつ地盤も海抜よりはるかに低い地域であるため、すでに午後8時30分ころから堤防を越えた高潮によって浸水が始まり、高潮が最高潮(午後9時35分)を挟んだころには、水田の多いこの地域を相当の水で侵入していったと考えられる。これらの水は中川瀬川支流からの浸水、さらに庄内川からの浸水と合わさって次第に広がり、さらに荒子川上流からの出水が加わり、広範囲な浸水地域を発生した。」



名古屋市内の浸水水位図  
名古屋市内の浸水水位日数図

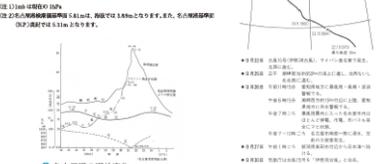


高潮対策が実施された庄内川堤防

③ 42000466 (A-0)  
42000479(A-1)

## 伊勢湾台風の概要①

昭和34年9月21日マリアナ諸島の南にあった熱帯低気圧は、急速に発達して22日9時には台風15号となりました。その後北西に進路をとり、23日15時には中心気圧が994mb(日1)最大風速は秒速75mの超大型台風となりました。26日18時15分南西方向15kmに接した台風は、吹き寄せ効果と加圧の低下に伴い21時35分名古屋港で最高水位 5.81m(名古屋港検潮儀観測所) (注2) を記録しました。これは天文高併せて 3.55m高く、台風史上かつてない異常高を中部地方に引き起こしました。



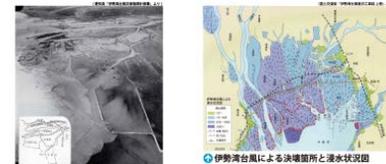
名古屋港の潮位変化

伊勢湾台風の被害が拡大した要因

- ・台風の上陸地点、気圧、風速、進行方向のすべてが伊勢湾に未曾有の高潮を引き起こす要素となった。
- ・日本最大の都市化した海抜0メートル地帯であった。
- ・江戸時代から干拓が進み、低地に多くの人々が生活するようになった。また、戦後多くの台風被害が日本各地で発生したが、中部地方は被害をまぬが、低地による危険性の認識が弱くなっていた。
- ・情報伝達の手段が乏しかった。
- ・午後6時15分頃に台風上陸後、間もなく停電になり、台風に関する情報が住民に伝わらなかった。昭和34年当時は、防災無線や携帯電話などもなく、情報の伝達手段はラジオとテレビが主であった。

④ 42000467 (A-0)  
42000480(A-1)

## 伊勢湾台風の概要②



伊勢湾台風による決壊箇所と浸水状況図



更知南西部の被災状況(海抜0メートル地帯)  
庄内川決壊箇所(宝神地区の左岸堤防から上流を見る)

明治以降の死者・行方不明者五千人以上の自然災害	1923年	10万5,000人余名
関東大地震	1896年	21,959名
明治三陸地震大津波	2011年	21,613名
東北地方太平洋沖地震	1891年	7,273名
濃尾地震	1995年	6,437名
兵庫県南部地震	1959年	5,098名
伊勢湾台風		

⑤ 42000468 (A-0)  
42000481(A-1)

- ① 伊勢湾台風の被害
- ② 市内の浸水状況
- ③ 市内の浸水状況2
- ④ 伊勢湾台風の概要1
- ⑤ 伊勢湾台風の概要2

# (2017年) 29年度 J I C A 活動紹介展示 A-1



44000123  
※こちらのみA-2

近藤ひろ子先生  
のモットー

### 「命」「支え合い」に国境なし ～防災教育支援を通して～

2016年から名古屋市港防災センターで防災教育アドバイザーとして活躍する近藤ひろ子氏は、長年小学校教員として学校を拠点とする防災対策を推進してきました。その経験をもとに、2005年から JICA の専門家としてモルディブ、タイ、ブラジル、ミャンマーなどに渡り、現地で防災教育を行っています。

災害は世界各地で起こります。世界に対して、日本はどのような支援を行っているのでしょうか。近藤ひろ子さんの活動を通して紹介します。

名古屋市港防災センター

44000124  
近藤先生の  
プロフィール

### ミャンマー連邦共和国

JICA「初等教育カリキュラム改定プロジェクト」

ミャンマーでは、基礎教育（人が生きるために必要な知識・技能を備えるための教育）の拡充が重要課題となっている。

このプロジェクトでは、児童中心型教育（CCA）実施のための新しいカリキュラムや、教科書・指導書、評価ツールの開発、人材育成の支援を行っている。

近藤ひろ子氏は、ライフスキル教科（保健・栄養・心の健康・社会適応・環境・防災の6分野）の専門家として参加している。

災害中心型教育（CCA）って？  
ミャンマーの小学校の低年、高学年の約8割に実施されているものの、5年生までは3割の子供が学校の授業中ではない。学習内容の理解ができていない。学習への興味・意欲が低く、楽しんで学ぶことが困難な状況。これを改善するために、今年度の防災教育の活動から、子どもが楽しんで学び、学ぶことが得意になってくれるような教育（CCA）への転換が目標とされている。

名古屋市港防災センター

44000125  
近藤先生の活動  
ミャンマー

### モルディブ共和国

JICA「モルディブ国津波災害緊急復旧・復興支援調査・コミュニティ支援に重点を置いた防災教育」2008年

2004年のスマトラ沖地震の被害を契機に、建築物等のハード面の支援だけでなく、人材育成などのソフト面での支援に JICA とし初めて参事。近藤ひろ子氏は、被災前（防災）に目を向け「人育で」「コミュニティ育で」を行った。

「おほしし」(好きでない、走らない、寝らない、震らない)の歌を現地語に翻訳し、子どもたちに覚えてもらい、発表した

発表会・講演会には、会場に入りきらないほどたくさんのお客の参加が認められた

婦人会のあるお母さん達の意見「防災の「二つの心」を子供たち・コミュニティに広げていくのは大切な事です」

防災の「二つの心」  
自分の命も 支え合い  
他の人の命も 助け合う心  
大切にすること

コミュニティ防災の担い手である、地域の婦人会との意見交換も積極的に行った

名古屋市港防災センター

44000126  
近藤先生の活動  
モルディブ

### タイ王国

JICA「タイ国防災能力向上プロジェクト」  
2002年(2006年～2008年)、2012年(2019年～2014年)

2002年に設立されたタイの「災害軽減局」の強化を目的として開始され、「コミュニティ防災」「防災教育」「土砂災害対策」などの専門家から日本から派遣された。

1 洪水に備えた防災訓練の様子

1 地域の防災マップづくり (災害軽減局にて)

1 防災リンクを授業で教える生徒たち  
「この防災リンクは、この授業で使っています。この授業で使っている、他の授業でも使っています。この防災リンクは、他の授業でも使っています。この防災リンクは、他の授業でも使っています。」

1 ペットボトルを転がした子供たちの活動の様子

プロジェクト経験では、これまで伝えてきたこと（防災は、心育で・人育で」「防災は、学校・家庭・地域が連携して」など）が、教育関係者の口から自分の考えとして自然と出てくるようになった。防災教育の専門家部分が、浸透した結果だと見える。

名古屋市港防災センター

44000127  
近藤先生の活動  
タイ

# 風水害関連パネル A-1

## 伊勢湾台風

### 上陸前夜

昭和34年9月21日マリアナ群島の東にあった熱帯低気圧は、急速に発達して22日9時には台風15号となった。その後北西に進路をとり、23日15時には中心気圧が894mb<sup>1)</sup>まで強まり、最大風速は秒速75mの超大型台風となった。

26日18時15分に和歌山県潮岬西方15kmに上陸。吹き寄せ効果と気圧の低下によって21時35分には名古屋地で最高潮位5.81m<sup>2)</sup>を記録し、台風史上かつてない大災害を中部地方に引き起こした。

(注1)1949年現在の10% (注2)名古屋港観測所(名古屋港)観測値(19.38m、名古屋港観測所(20%)観測値(5.51m)より)



超大型台風であることに加え、上陸地点・進行方向も最悪のルートだった

日本最大の都市化した海拔ゼロメートル地帯であった

江戸時代から干拓が進み、低地に多くの人が生活するようになった。また、戦後多くの台風被害が各地で発生したが、中部地方は被害を受けなかったため、危機意識が低かった。

情報伝達的手段がなかった

台風上陸後すぐに停電となり、各県に関する情報が伝えられなかった。昭和34年当時は携帯電話はほとんど普及しなかった。情報伝達の手段はラジオとテレビが生じた。

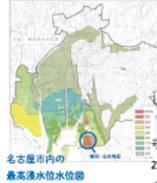
海拔ゼロメートル地帯を襲った巨大台風

## 高潮と貯木

### 高潮

伊勢湾台風による水害は、河川出水によるものだけでなく、高潮によるものであることが特徴的である。最大時には名古屋市内だけでも半分近くが浸水した。

水の勢いは極めて強く、水位の上昇も急激だった。堤防決壊の様子について被災者は、「まるでナイアガラの滝のように、堤防の全面から海水が侵入した」と形容している。



### 貯木

押し寄せた高潮によって大量の貯木が市街地に流出し、これによってさらに被害は甚大なものとなった。特に被害が大きかったのは、南区柴田・白水地区の8号地貯木場周辺。貯木されていた36万石の貯木のうち28万石が流出した。また、名港木材整理場、加藤貯木場、木場貯木場からも大量に木材が流出し、市街地に被害を与えた。

### 被害状況

市区町村	死者	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水				
名古屋市内	10	47	31	172	22,894	46,043	4	47	4	98	9,818	21,852	4	47	4	98	9,818	21,852	4	47	4	98	9,818	21,852

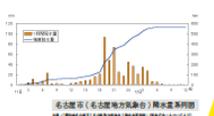
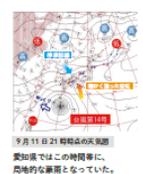
42000470  
伊勢湾台風の概要  
被害拡大について  
(平成29年水害展作成)

42000471  
伊勢湾台風の被害  
高潮と貯木について  
(平成29年水害展作成)

## 東海豪雨の概要

### 豪雨前夜

2000年(平成12年)9月8日頃から本州付近に停滞していた前線は、9月10日から12日にかけて日本海を南下し、東北地方から山陰沖の日本海沿岸にあって、その一方で日本の南には、大型で非常に強い勢力の台風第14号がその勢力を保ったまま、ゆっくりとした速度で南次東島の海上を北西に進んでいた。



### 局地的な集中豪雨

台風第14号の東側を回る暖かく湿った空気が前線に向かって長時間流入したため、東海エリアでは同じ地域において長時間にわたり暴風雨が降り続き発生し、線状降水帯が形成された。名古屋地方気象台の記録では、11日19時過ぎまでの最大1時間降水量が97ミリを記録した。また、12日までの24時間降水量は、534.5ミリ(11日～12日の総降水量566.5ミリ)となった。それは名古屋市の年間降水量1,535ミリ(統計1981-2010年の平均)の1/3に及ぶ量となり、現在でも観測史上第1位(2020年時点名古屋市内)となる、まさに記録的な豪雨となった。

## 被害状況

この豪雨で名古屋市と周辺市町村では、河川の越水や新川堤防の決壊により、広い範囲で浸水被害が発生し、土砂災害も各地で発生した。被害総額は約8,500億円(当時の建設省試算)と算定され、国が「激甚災害」とした。また、愛知県決定により、9月12日には、名古屋市に「災害救助法」が適用された。東海豪雨は大都市名古屋を始めとしてインフラが集中する人口密集地を直撃し、避難勧告・避難指示の対象人口が極めて多数に上ったことから、「都市型水害」として特筆すべき災害となった。

市内で特に被害が大きかった箇所

- 新川堤防決壊: 市区の新川沿岸では、約100mにわたり堤防が決壊した。
- 北区等周辺地区: 北区等周辺地区では、内水氾濫や、新川と新川の合流点付近での堤防など、いくつかの要因が重なって甚大な被害となった。
- 天白区野島地区: 天白川と藤川の堤防に決壊した地域(緑の地帯)が水害より低いところにあつたため、河川の越水、雨水の集中により内水氾濫が発生した。さらに排水ポンプ場が十分に稼働しなかったこともあり、2m以上の浸水被害となった。
- 名古屋市の浸水: 名古屋市の浸水では、蒲原(当時の西春日部郡蒲原町・新川町)の0m地帯の被害が大きかった。また、愛知県内では10箇所以上の河川の堤防があり、多くの浸水被害をもたらした。

市区町村	死者	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床上浸水					
名古屋市内	10	47	31	172	22,894	46,043	4	47	4	98	9,818	21,852	4	47	4	98	9,818	21,852	4	47	4	98	9,818	21,852

42000482  
東海豪雨の概要① 概要  
(令和2年東海豪雨20年展作成)

4200483  
東海豪雨の概要② 被害状況  
(令和2年東海豪雨20年展作成)



# 平成30年7月豪雨 名古屋市の支援 A-1 (2018年) (平成30年伊勢湾台風展時作成)

平成30年7月豪雨  
名古屋市の支援

「平成30年7月豪雨」では、前線や台風第7号の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。この大雨について、気象庁は1府10県に特別警報を発表し、最大限の警戒を呼びかけました。また、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、現時点での死者は223人(※)にも及ぶ甚大な被害となり、未だ被災地は復興の途中にあります(※)。

この展示では、災害発生直後から多岐にわたって行われた名古屋市の支援を紹介します。

**消防局 緊急消防援助隊**  
派遣人数▶延べ132名  
派遣部隊数▶24隊  
活動場所▶岡山県倉敷市真備町  
派遣期間▶7月6日～12日

7月8日 安教助者救出

7月7日 岡山県倉敷市 浸水一帯CA  
7月7日 陣巻土通  
7月8日 被災地へ物資搬送  
7月8日 被災地へ物資搬送  
7月10日 被災地の様子

作成：名古屋市消防局センター

42000474

平成30年7月豪雨  
名古屋市の支援

**建物被害調査**  
派遣人数▶20名  
派遣先▶広島県三原市  
派遣期間▶第1次/7月16日～24日(10名)  
第2次/7月24日～31日(10名)

**環境局 災害ごみの収集**  
派遣人数▶42名  
派遣先▶広島県安芸郡坂町  
派遣期間▶第1次/7月19日～7月26日(14名)  
第2次/7月26日～8月2日(13名)  
第3次/8月2日～8月9日(15名)

**被災証明書 受付発行业務**  
派遣人数▶22名  
派遣先▶広島県三原市  
派遣期間▶第1次/7月17日～24日(11名)  
第2次/7月24日～31日(11名)

作成：名古屋市消防局センター

42000475

平成30年7月豪雨  
名古屋市の支援

**健康福祉局 被災者の健康相談等**  
派遣人数▶保健師7名、業務調整担当5名  
派遣先▶広島県呉市  
派遣期間▶7月12日～8月2日  
活動内容▶被災者の健康相談・健康チェック等

**上下水道局 応急給水活動**  
派遣人数▶5名  
派遣先▶広島県呉市  
派遣期間▶7月12日～19日

**飛騨川上流域の被害状況調査**  
派遣人数▶3名  
派遣先▶岐阜県下呂市  
派遣期間▶7月8日～10日

**水道施設被害調査、技術的な助言**  
派遣人数▶3名  
派遣先▶広島県三原市  
派遣期間▶7月21日～23日

その他  
災害見舞金の贈呈……など

作成：名古屋市消防局センター

42000476

42000474  
名古屋市消防局の活動

42000475  
建物被害調査 環境局の災害ゴミの収集  
被災証明書の受付業務

42000476  
健康福祉局の被災者の健康相談等  
上下水道局の活動  
その他

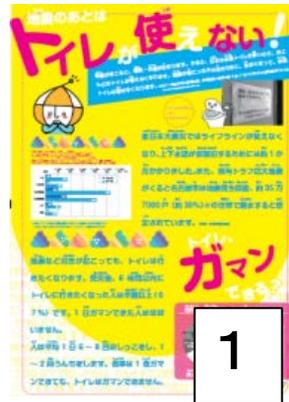
# トイレ展パネル

H29・H30年度作成

① 「地震の後はトイレが使えない！」

A1 44000129

A0 44000136



② 「そもそも避難所の  
トイレに行けるの？」

A1 44000130

A0 44000137



③ 「トイレが原因で  
病気になる!？」

A1 44000131 ,

A0 44000138

④ 「災害時のトイレいろいろ」

A1 44000132

A0 44000139



⑤ 「結局どうすれば？」

A1 44000133

A0 44000140

⑥ 「携帯トイレの使い方」

A1 44000134



⑦ 「水で流す方法」

A1 41000141



